

臼杵市 事務事業評価シート
(平成 28 年度)

番号	課名	グループ名
C - 1	保険健康課	医療福祉政策

事務事業名	人材育成貸付金事業（医学生等奨学資金）						新規・継続	継続		
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	I-1-3	医療・保健・福祉の連携					ソフト・ハード	ソフト	
	関連施策名 (施策コード)									
基本項目	事業内容 (経緯)	臼杵市の医療を支える人材の育成・確保を目的とした奨学金制度で、医学奨学生は平成23年度から、看護奨学生は平成27年度から事業実施しています。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	医学生奨学生	奨学生人数	人	2	2	3	1	2
		②	看護学生奨学生	奨学生人数	人			3	5	4
③										
④										
事業対象	本人又は保護者が臼杵市在住で、かつ将来市内の医療機関の業務に従事しようとするもの	成果	平成28年度は看護学生奨学生として2名が決定しました。平成28年度末には、看護学生奨学生2名が卒業し、うち1名が臼杵市内の医療機関で勤務しています。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	臼杵市内の医療機関等への業務従事者数	従事者数	人				1	4		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	4,380					300	4,080

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		医学生及び看護学生への奨学金制度により、臼杵で育つ子供たちの夢の実現を支援し、さらに、将来臼杵市の医療従事者の育成と確保につながります。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が見られるか		医学生は返還猶予期間等があるため卒業直後の市内医療機関従事については見込めませんが、看護学生については市内での従事が見込め、臼杵市の医療人材の確保につながります。
A		A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		募集人員(医学生2名、看護学生4名)に対する、応募者が看護学生2名にとどまっているため、制度の周知方法等を検討する必要があります。	
	B	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	医療従事者の育成と人材確保は臼杵市にとって重要な事項ではありますが、制度の活用が低いことから、周知方法等を検討する必要があると思われます。			
前年度の改善案	平成27年度より看護学生を対象とした奨学金制度を開始し、対象者の枠を増やしました。			
具体的な改善案	医学生は返還開始が最長で12年後となることから、奨学資金の返還を猶予された者は、現況報告書の提出を求め、毎年状況把握を行うこととしました。			

課長評価	現状のまま継続する(継続)	理由	臼杵市は、少子高齢化が進む中、今後、医師や看護師の不足により市民の安全安心に影響を及ぼす可能性がある。この奨学金制度は、臼杵市の医療に貢献していただく人材育成事業として、有意義な事業である。
------	---------------	----	---

番号	課名	グループ名
C - 2	保険健康課	医療福祉政策

事務事業名	うすき石仏ねっと事業						新規・継続	継続		
						ソフト・ハード	ソフト			
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	I-1-3	医療・保健・福祉の連携							
	関連施策名 (施策コード)	I-1-2	身体と心の健康づくり							
基本項目	事業内容 (経緯)	無駄の少ない安全で質の高い医療・介護サービスの提供をめざし、地域医療介護情報連携システムである「うすき石仏ねっと」を運営しています。平成28年度からは国保特定健診情報の参照が可能となりました。								
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
					H25	H26	H27			
		①	石仏ねっとの登録施設数	石仏ねっとに登録し、利用できる施設数	施設	26	47	88	93	122
		②								
③										
④										
事業対象	市民全体	成果	医療費の適正化や重症化予防に寄与しました（医療機関26箇所、調剤薬局16箇所、歯科医院18箇所、介護事業所21箇所、消防署通信指令室などに繋がっています）。							
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値		
				H25	H26	H27				
	石仏カード加入者数	石仏カードに加入している市民の人数	枚	4,381	6,711	8,901	12,144	15,000		

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	13,177		8,000				5,177

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か		加入機関が情報共有することにより、重複した検査や治療、服薬を省くことができ、市民の費用負担や、体への負担を軽減することができます。また緊急時に参照することにより適切な救急救命処置が行えます。
		A	A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない	
有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか		検査データや服薬内容などを把握し活用することで、状態に応じた適切な治療につながり、早期治療や重症化予防の効果が期待できます。医療費の適正化に繋がり市民の負担が軽減されます。	
	A	A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない		
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか		国保加入者の健診データの取得は可能ですが、それ以外の保険加入者の取得が難しいと思われます。また、市外の医療機関に受診している方も多く、市内関係機関に限られたシステムです。	
	B	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない		
事業の問題・課題	国保特定健診の情報については市の健康管理システムに集約されているので、石仏ねっと加入者の同意があれば石仏ねっとに反映することができますが、社保など事業所の健診の情報はないため、反映させるためには事業所と契約を交わしたり、データ形式の調整などが必要となるため、検討が必要です。 65歳以上の加入者が66.4%を占め、加入者の年齢層に偏りがあります。			
前年度の改善案	27年度は消防署との連携や特定健診の情報反映など新しい機能を追加してきました。28年度は石仏ねっとに加入している医療・介護施設への利用促進と石仏ねっと加入者数増を図るため、施設と市民の方からの声を集約し、母子手帳や予防接種の情報の搭載を検討するなど、より活用していただける石仏ねっとを目指します。			
具体的な改善案	28年度は国保特定健診情報の参照が可能となりました。石仏ねっとは現在、高齢者に偏っており、子どもや現役世代の加入者を増やす必要があるため、母子手帳情報の搭載や他市医療機関などとの連携を検討するなど、より活用していただける石仏ねっとを目指します。			

課長評価	重点化する(重点化)	理由	医師会等関係機関と連携して無駄の少ない安全で質の高い医療・福祉サービスの提供をめざし取り組んでいるうすき石仏ねっとの普及啓発、効果検証、重症化予防や医療費適正化等保健事業への活用が必要です。H29年度からは母子手帳等の電子化に着手し、早期実施による活用が大きく期待できます。
------	------------	----	---

番号	課名	グループ名
C - 3	保険健康課	健康推進グループ

事務事業名		がん検診事業					新規・継続	継続	
		ソフト・ハード		ソフト					
総合計画との関連	主要施策名 (施策コード)	I-1-2	身体と心の健康づくり						
	関連施策名 (施策コード)	I-1-3	医療・保健・福祉の連携						
基本項目	事業内容 (経緯)	各種がん予防(胃・肺・大腸・乳・子宮頸部がん検診)を周知・啓発し、検診機関に委託して実施します。要精密者には、医療機関への受診を勧奨し、がんの早期発見・早期治療につなげます。各種がん検診の要精密者の受診勧奨およびフォローを委託先の健診センターに実施して頂き、報告をもらいます。市は精密検査未受診者への受診勧奨を再度行い、受診勧奨の徹底を図っています。							
	行動指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値
					H25	H26	H27		
		① 胃がん検診受診率(40歳以上)	受診者数/対象者数(40~69歳)	%	13	13	19	9	40
		② 肺がん検診受診率(40歳以上)	受診者数/対象者数(40~69歳)	%	28	28	38	15	40
③ 乳がん検診受診率(40歳以上)	受診者数/対象者数(40~69歳)	%	24	23	33	16	50		
④ 子宮頸がん検診受診率(20歳以上)	受診者数/対象者数(20~69歳)	%	42	48	54	23	50		
事業対象	各種がん検診対象者(厚生労働省の指導によりH28年度より対象者数の算定方法が変更となったためH28は受診率が低下しています)	成果	対象者数の算定方法が変更になったため受診率は低下していますが、肺がん、子宮がんの受診者数は増えています。またがんの発見数は7件とがんの早期発見に繋がっています。						
成果指標	指標名	説明・算式・引用	単位	実績の推移			H28 実績値	H31 計画値	
				H25	H26	H27			
	がんの早期発見につながった件数 (胃・肺・乳・子宮)	がん発見数	件数	3(胃0肺1乳1子宮1)	7(胃1肺0乳3子宮3)	12(胃2肺3乳5子宮2)	7(胃3肺2乳2)	10	

コスト 事業費+人件費	フルコスト(千円)	内訳	国庫補助金(千円)	県補助金(千円)	市債(千円)	使用料・手数料・その他(千円)	一般財源(千円)
	46,789		121				46,668

評価の視点	評価	判断基準		理由
	必要性	目的が市民ニーズに照らして妥当か	臼杵市の死亡原因の第1位、65歳未満の死亡原因の1位も「がん」です。国も受診率50%を目指しており、早期発見・治療により生存率が変わってくるため、がん検診の受診率を向上させる必要があります。	
		A: 適応している B: 一部適応していない C: 適応していない		
	有効性	目的や目標に照らして予想される効果が得られるか	診断と治療の進歩と、早期発見・治療により生存率も高まっていることから、年1回(乳がん・子宮頸がんに関しては2年に1回)のがん検診の受診が重要です。	
A: 期待したとおりの効果がある B: 期待したほどの効果が見られない C: 効果が少ない				
効率性	行政資源量(特にコスト)に対し合った効果があるか	がんで、入院すると一人あたり65万円かかります。また、仮に死亡した時は、臼杵市の市民税としての収入も減少します。働き盛りのがん検診受診率の向上が特に効率的です。また、国保努力者支援制度前倒し分で、検診率が自治体の5割である13.3%を越えているので、10点獲得できた。		
	A: 効率的に効果が出ている B: 改善の余地がややある C: 効率的に効果が出ていない			
事業の問題・課題	早期発見が必要な事、定期検診の必要性が大切な事、臼杵市でも死亡の1位がガンであり65歳以下の死亡の1位がガンである事等を繰り返し、伝えていく必要があります。また、胃内視鏡検診を来年度より取り入れること。中学生のピロリ菌検査を来年度より独自検診も充実していく初年度であるので、養教部会や学校保健連絡会での説明など周知や理解いただけるように医師会・健診センターと連携して、取組むことが課題です。			
前年度の改善案	女性特有のがん検診受診率向上に向けて、女性向けイベントと同日開催を継続して実施しました。平成29年度の胃カメラ検診の導入に向け、県担当者を招き、中部保健所・コスモス病院・健診センターと協議し、適正な検診が出来る環境整備を確立しました。また、胃がん予防に有効なピロリ菌検査を推進する目的で10月にコスモス病院・健診センターと連携し胃がん予防講演会を実施しました。当日は無料尿検査も実施しました。中学生の尿検査でのピロリ菌検査が出来るように教育委員会へも働きかけ、学校教育課・コスモス病院・健診センターと協議を重ね来年度より「中学生のピロリ菌検査」を実施する事となりました。乳幼児健診時に子宮・乳がん検診の呼びかけ、食育フェアや糖尿病講演会時に「がん検診受診勧奨」のパンフレットを配布しました。			
具体的な改善案	来年度より実施する胃内視鏡検診やピロリ菌検査がスムーズに実施できるように、養教部会や学校保健連絡会での説明など周知や理解を深めて頂くように医師会・健診センターと連携して取り組みます。また、胃内視鏡検診については大分県で2番目に開始でき、中学生を対象にピロリ菌検査を実施したのは別府市に次いで2番目ですが、尿検査で市内全ての中学校で実施するのは臼杵市が初めてですので、広報などにも積極的に取り上げてもらえると良いと思います。			

課長評価	重点事業であり、引き続き継続する(重点継続)	理由	各がん検診の受診率はH28年度より算出方法が変更となり、前年を下回っていますが、実数で見ると子宮頸がん、肺がん検診においては着実に伸びています。しかし乳がんはほぼ同数で、胃がん検診については、下回っています。これは、バリウムによる検査を敬遠する傾向にあり、目標達成に努力が必要である。このような状況ではあるが、胃がんについてはコスモス病院で内視鏡検査の増設や、乳がんでは有名人の闘病等が報じられ、市民意識が向上し、受診率の向上につながると思われる。引き続きがん発症の抑制につなげることが重要である。
------	------------------------	----	---